

初富士号 *Shou* 尚

発行者: 寶積英彦 埼玉県狭山市水野594番地 企画編集: 広報紙編集室 編集長: 関口 歩
ホームページアドレス: www.syojukai.or.jp メールアドレス: syojukai@mirror.ocn.ne.jp

年頭あいさつ 理事長 寶積英彦

平成28年、新年あけましておめでとうございます。

本年も未来明るい新年を迎えることができました。これも、尚寿会を心から支えてくれる職員、当法人を信頼し利用して下さる地域の皆様、そして地域で密な医療・看護・介護連携をさせて頂いている皆様の熱いご協力の上でのことと、心より感謝申し上げます。

本年は初めて尚寿会の理事長として、年頭のご挨拶をさせていただきます。

昨年は、私にとっても、また、法人にとっても大変な一年でした。まだまだその渦中でもがきながらですが、今日からまた新しい一年がスタートします。やることは山積していますが、できることは全てやり尽くしたと言えるくらい、一人ひとりが努力と工夫を重ねて行って欲しいと思います。

新しい年が始まることは昨年が終わること、1年には区切りがあります。しかし、現実には年をまたいで継続されるべき多くの重責を担って、本年を最良の年とするために、私たちは昨年以上に地域ニーズに応えるべく、尽力しなければなりません。

先代理事長が夢と希望を胸に開設した大生病院は、37年目を迎えます。開設のきっかけは、皆さんもご存じのとおり、60歳代で病床生活を余儀なくされた私の祖母にあります。脳出血の後遺症にて、家族総出の介護生活でした。当然ですが、当時は介護保険制度も無く、そして長期にわたり医療・看護・介護・リハビリテーションを行うことができる慢性期医療の概念すらありませんでした。その様な中、「信頼と愛とで築く老人医療」を理念に、緑豊かな狭山市水野に小さな病院を開設しました。

そして、平成28年1月までの37年間、時代・地域ニーズは矢の如く変化を遂げ、同時に病院も変化を余儀なくされました。当時小学生であった私が病院長となり早8年、理事長となり間もなく1年となりますが、理念も「信頼と愛とで築く地域医療」へと変化を遂げました。病院の存在意義が明確でなければ、誰も必要としません。必要とされる中で、個人から法人へ、そして同じ志を持つ職員（仲間）が増え、多くの協力施設が増えました。

志はひとつ、正しい慢性期医療が行える事です。重症疾患を多数合併する方を迅速にお受け入れし、質の高い医療を長期にわたり提供する。看護・介護・リハビリテーションも同様です。

そして、ご自宅への退院を願われる方には、早期に期待に応えることのできる体制をみんなで協力して確立させる。尚寿会で提供されるべきものは、ニーズによって確立されてきました。

大生病院は、地域包括ケア病棟・重症患者受け入れ病棟を主軸に、473床の狭山市唯一の慢性期医療専門病院になりました。多くの方々に支えられ、人工呼吸器をつけられた重篤な患者様、人工透析が継続して必要な患者様まで拝見できるようになりました。上部消化管内視鏡検査は、消化器内科科長の指導のもと、年間1300件以上行っています。また、全国的にも最先端である医療機器（3.0T MRI システム・124列デュアルソースCTスキャン）を導入し、地域医療機関との高度医療機器の共働も行っていきます。

あさひ病院 300床は、認知症専門病院の業績が認められ、認知症疾患医療センターの指定を受けま



した。センターとして先ず、地域の先生方の支えとなれる様に、認知症の方の診療体制を強化します。認知症の方やそのご家族がこの地域で尊厳を持って暮らして行ける様、認知症疾患の理解を深める「認知症サポーター養成講座」等を展開しながら、地域の皆様への啓蒙活動にも尽力しています。

介護老人保健施設 愛 は、在宅強化型老健の指定を受け、中間施設としての役割を担うと共に、常に在宅を意識しながら、また、看取りまでできる施設として、その存在意義を高めています。

大生水野クリニックは、耳鼻いんこう科・摂食嚥下専門外来を主軸に、多くの診療科（整形外科・リハビリテーション科・歯科・口腔外科・ペインクリニック・泌尿器科）を全て専門医にて診療を行っています。また、高い志を持った在宅部門専従医師により、在宅療養支援診療所の指定も受けています。

在宅サポート21狭山訪問看護ステーションは、当然強化型ステーションで、西部地域では唯一、定期巡回随時対応型訪問介護看護を行っています。その他にも、入間・所沢・狭山の居宅介護支援事業所において、30名近い介護支援専門員が、在宅療養のお手伝いをさせて頂いています。

そして、本年は念願であったご高齢の方が永住できる施設、サービス付き高齢者住宅“わが家入曾”の新規開設が、いよいよ目前となりました。尚寿会が運営するサービス付き高齢者住宅は、安心・安全を第一に、もちろん地域優先で運営していきます。

正しい慢性期医療とは、個々の患者様・利用者様のご希望に添った生活を支える事ができる医療です。在宅も推進しますが、強要するものではありません。地域の皆様も、先ずご自身で自身の将来と向き合い、夢・希望・目標を明確化なさる様ご協力ください。その夢・希望・目的に沿った個別医療・個別看護・個別介護・個別リハビリテーション・個別マネージメントを行うのが、私達尚寿会の役割です。

本年も行わなければならないことは山ほどあり、きっと忙しい年になります。必死に働き、忙しい職場。それでもやる価値があるもの。それが尚寿会の正しい慢性期医療です。同時に法人職員の皆さんは、それぞれの職場で未来と向き合いましょ。そして適切な成果を出していきましょう。

理念の明確化は必須です。但し、理念の明確化の前段階として、法人全職員が多様性のある個々のニーズにひとつひとつ応えられているかを、自身で確認しなければなりません。

更なる成長・忍耐・柔軟性が求められる、重要な生まれ変わりの年が、平成28年です。その先頭に立つ私は、常に謙虚な姿勢で、職員の皆さん・地域のニーズに対応することを約束します。

医療法人尚寿会の職員は常に私と同じ志で、この難局を乗り切る“同志”となってください。

医療法人尚寿会 理事長 實積英彦

安心と安らぎのある住まいで暮らす
～サービス付き高齢者向け住宅「わが家入曾」入居者予約受付中～



西武新宿線入曾駅前に、サービス付き高齢者向け住宅「わが家入曾」を、来月開設する予定で準備を進めています。本来であれば在宅生活に戻りたくても、在宅医療介護の環境が整わないためになかなか退院できない方々、あるいは病気ではないけれど、独居生活に不安のある方々を対象に、24時間体制で管理人がいるサービス付き高齢者向け住宅で、生活支援と各医療介護サービスとの橋渡しをしながら在宅医療介護のニーズに応えることが可能になると考えています。

医療法人尚寿会が運営するサービス付き高齢者向け住宅、安心・安全が違います。ご興味のある方は、お気軽に下記までお問合せ下さい。（熊★）

【サービス付き高齢者向け住宅 わが家入曾 概要】

- 西武新宿線入曾駅西口下車 徒歩1分
- 入居者数定員（個室）22名
- 24時間有人管理（管理者 看護師・救命救急士）
- お問合せ：04-2957-1144 医療法人尚寿会 事業企画運営室まで



リハビリの総合力を高めるために！ ～第3回尚寿会リハビリテーション研究会開催～
～テーマは『地域』リハビリテーションの可能性～

尚寿会リハビリテーション研究会は2年に1度、大生病院・あさひ病院・老健 愛・在宅サポート21狭山訪問リハビリ・大生水野クリニックリハビリテーションの各セラピストが一堂に会し、テーマに沿った研究発表を行い、お互いの知識・技術の研鑽を図る会です。尚寿会全体としてのリハビリ職は100名を超える人数です。

今回の研究会では、各施設からの『地域』に関する研究を6演題、そして理事長先生からも『地域の方々がリハビリテーションに望むもの～そして私が望むもの～』というテーマで講演をいただきました。

今回の研究会は就業時間後の開催にも関わらず、各施設のセラピストの殆どと、多職種の職員にも参加頂き、総勢140名にもなる盛大な研究会となり、これからの医療・介護のテーマとなっている『地域』、そしてセラピストとしての自覚、これらに向けた覚悟を改めて見つめなおす良い機会となりました。

今後私たちセラピストは、専門のスペシャリストになるための研鑽と共に、総合力を持ったリハビリ専門家として、活躍できるよう努めて参りたいと思います。 (なみ)



- 理事長賞：「活動・参加へ向けた訪問リハビリの取り組み」 在宅サポート21狭山訪問リハ科
奨励賞：「認知症患者におけるエピソード記憶に比較して感情は遷延する事の実証」 大生病院A棟リハ科
：「膝関節不安定性に対して、青竹踏みエクササイズの有用性」 大生水野クリニックリハ科

更に充実！大生水野クリニック ～専門医による診療科目が増えています！～

耳鼻いんこう科・整形外科・歯科から在宅医療で、地域住民の方の頼れるクリニックとして多くの患者様にご利用頂いている大生水野クリニック。

7月にはペインクリニック内科を開設し、肩や腰からの痛みやしびれに対する診療を開始しました。また10月には泌尿器科もスタート。尿に血が混ざる、頻尿や尿漏れなどの泌尿器の疾患や異常に対応できる体制が整いました。

「少し痛い程度だから大丈夫だろう」や「年齢的な症状だろう」と放置すると、慢性的な症状になってしまふこともあります。痛みや不安・異常を感じたら、

お問合せ：大生水野クリニック 電話：04-2957-0501

整形外科・ペインクリニック内科や泌尿器科へご受診ください。

外来の拡充に伴い超音波検査（エコー検査）の機器も新たに導入しました。検査に痛みを伴わず絶食も不要なので、安心して検査を受けて頂くことができ、女性に多い甲状腺疾患の検査や、腎・尿管結石や前立腺疾患の診断に役立っています。

ペインクリニック内科外来は毎週火曜日で、泌尿器科外来は毎週土曜日、どちらも午前中（8:45～11:30）ペインクリニック内科は予約制）での診療です。ご不明の点はご遠慮なくお問合せください。 (なる)



災害時の備え ～自家発電装置が新しくなりました！ 大生病院～

大生病院の自家発電装置が、これまでのものより発電量が約3倍の400kw、使用時間も約3倍の9～10時間可能となる大型のものを設置しました。停電時には大生病院全設備に電力を提供することができます。（※100%出力の場合）

非常事態において、医療機器をはじめ照明などが使えることは、患者様・ご利用者様、またスタッフにとっても、少しでも不安を取り除く材料のひとつ。そう考えると日頃どれだけ電気にお世話になっていることか。改めてありがたさを感じます。

昨年11月の工事期間中及び新旧設備入替の際には、全館丸一日停電しての作業となり、入院患者様・ご利用者様・ご家族の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。ご理解ご協力に改めて感謝申し上げます。 (ちか)



蟹気楼 ～あなたの骨年齢は何歳ですか？～

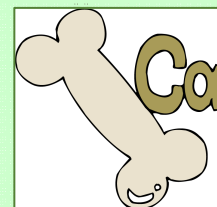
今回は骨粗鬆症（閉経後骨粗鬆症）についてお話したいと思います。

骨粗鬆症は骨を作る細胞（骨芽細胞）と骨を壊す細胞（破骨細胞）のバランスが悪くなり、骨が脆くなることで骨折が起こり易くなる病気で、特に女性ホルモンと関連していると言われており、閉経後から進行します。

私が大学病院に勤務した平成元年頃は、この病気がだんだんと知れ渡っていました。しかし、今とは違い骨粗鬆症に対する詳しい検査や治療薬はなく、脊椎や股関節のレントゲンから骨粗鬆症を診断し、治療薬も現在では治療効果が低いビタミンDやカルシウム剤位しかありませんでした。

最近では、骨粗鬆症の検査も治療薬も研究が進んでいます。骨の密度を測定できる特殊な装置も開発され、当院にも設置してありますし、血液や尿検査から骨細胞の代謝回転の度合いを知ることもできます。特に治療薬は改善の一途です。代表例であるビスホスホネート剤は、破骨細胞をコントロールする薬で、月に1回の内服で良いのです。さらに最近では注射薬も充実し、プラリアという薬は6ヶ月に1回の注射で骨粗鬆症を治療します。

しかし、最も大切なことは運動や食事療法です。まずは身体を動かすことや、カルシウムを含む十分な食事を摂取することです。その上で薬物療法を考えて頂ければと思います。手始めに、自分の骨密度を測定し、把握しておくことから始めましょう。 大森茂樹（大生水野クリニック副院長 整形外科外来 月・水・金担当）



冬の感染症 ～流行シーズンに入っています！～



冬に流行する代表的な感染症は、インフルエンザとノロです。その理由は、気温が低くなり空気が乾燥する環境により、ウィルスが体外で長い時間存在することができるからです。これまでも予防策として、うがい、手洗い、マスク、加湿、睡眠、栄養、運動、そして規則正しい生活を送ることを推奨してきました。

予防策のひとつに“マスク”を挙げています。これは、咳、くしゃみ、空気感染、飛沫感染、から守る事、または、相手にうつさない事を目的としています。ただ、マスク＝インフルエンザのイメージを持たれている方が多いと思いますが、ノロにも飛沫感染が認められていて、2006年にその年最大の発症者数を出したあるホテルの事例を挙げてみます。ホテルでの結婚式に参加したひとりの客が、3階のロビーと25階の通路で2度にわたり嘔吐。ホテル側はすぐに中性洗剤を使ってふき取ったのですが、3日後に不調を訴える利用者が3階と25階に集中していることが判り、保健所の指導の元、絨毯に残ったわずかな吐物が感染源の可能性が高いと判断し、消毒を行いました。この時、利用客やホテルの従業員合わせて347人が症状を訴えています。これらは、ノロによる集団感染の可能性が高いと、保健所は判断しています。多くの方が絨毯の上を歩くと、乾いたウィルスが空気中に舞い上がり、それを吸い込み感染するといった図式が見えてきます。“マスク”は、ノロにも有効だという事例でもありました。



予防は、努力ではなくて日常の一部であればいいですね。 （茶木）

医療法人尚寿会大忘年会～新たな1年もよろしくお願い致します～

さる12月11日（金）に川越プリンスホテルにて恒例の尚寿会大忘年会を開催しました。今年も550名の職員参加という大盛況！今回一新された鈴木幹事長（大生水野クリニック医事課）より感想を頂きました。

今年度は全員が初の幹事ということもあり、周りの先輩から多くの助言を頂き、無事終了することができました。出席された職員の皆様が、少しでも日常業務の疲れを忘れ、楽しめたと感じて頂ければ幸いです」

初幹事のみなさん、お疲れ様でした！そして新たな1年、尚寿会全職員が一丸となり頑張りましょう！（クロ）



☆初富士号☆はつふじ号 富士山はいつみても美しいですが、新年を迎えて仰ぐ富士山はまた格別。見る者に、前途の希望と勇気を与えてくれますね。先代の理事長も富士山がとてもお好きでした。今はこの山に先代を重ねながら仰ぎ見る日々…、今年も尚寿会を見守って下さいね。 （歩）

